

平成24年度 学校自己評価システムシート (県立吹上秋桜高等学校)

目指す学校像	多様な学習歴や生活環境、ライフスタイルをもった生徒の新たなチャレンジとことん支援する学校
重点目標	1 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着・向上 2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の涵養 3 生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に即した進路指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月8日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> きちんと授業に取り組んでいるとはいえない生徒が、29.7%存在する。特に、Ⅱ部の1年次生に履修状況の悪い者が多いので、授業の大切さを自覚させる指導が必要である。 予習復習をする生徒は11.7%から25.1%に、自主学習の習慣も18.7%から22.9%に増加した。引き続き学習習慣をつける指導を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に意欲的に授業に取り組む生徒を増やすとともに、家庭学習の状況を改善させる。 基礎学力を向上させるための取り組みを行い、具体的な成果を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①少人数クラス編成や習熟度別授業を生かす指導法や評価法を工夫して、前期のうちに研修等で成果を共有する。 ①年度末までに基礎力診断テスト・実力テスト等を実施する。 ②特別支援教育体制整備事業を活用し、外部機関との連携して生徒や教職員への支援を定期的に行う。 ③学習支援員を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①成果の共有を後期に生かしたか。生徒の授業履修率や、授業への取り組み状況等についての学校自己調査票の回答結果が改善したか。 ①基礎力診断テストのD判定の減少等の結果改善があったか。 ②外部機関との連携には効果があったか。 ③学習支援員は活用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研修会で成果を共有した。また、授業に取り組めない生徒は19.6%(10.1%減)、予習復習率は21.5%(3.6%減)家庭学習率は26.2%(3.3%増)、授業満足率は73.4%(6.1%増)。 ①2年次生の基礎力診断テストD判定は昨年度90.8%、今年度92.7%。1年次生は1月に実施。 ②生徒対応の研修や秋桜スタンダード策定等、巡回支援の成果があった。 ③学習支援員を多くの場面で活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①研修の成果をまとめ、今後の新転入者とも共有する。また、継続して生徒の基礎学力の定着と向上に資する工夫を行い、学校自己調査票の結果数値の改善を図る。 ①基礎力診断テストを継続し、判定結果を生かした指導を行う。 ②秋桜スタンダードを生かした指導計画の立案と実施を行う。 ③継続して学習支援員を必要の高い生徒に集中して活用する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 中学時代に不登校だった生徒の6割が改善した。だが、一部に基本的な生活習慣が確立されておらず、規範意識や自己肯定感が欠け、非行問題等で生徒指導の対象となる生徒もいる。ルールとマナーの指導が課題である。 選択科目が増加し、生徒の時間割に空きも生じ、中抜け等の指導が難しくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なルールとマナーを指導し、整容や学習態度を向上させるとともに、健全な人間関係を構築させる。 教務事務システムを効果的に利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①立哨指導や巡回指導、挨拶運動を推進するほか、前期のうちに外部との連携を強化する。 ②QUテストを5月までに導入して、HR経営や生徒指導に活用する。 ③学校行事等を通してルールやマナーを指導する。 ①教務事務システムを、出欠管理や成績処理の他、生徒指導にも活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻や中抜けが減少したか。問題行動が減少し、発生時にも適切に対処できたか。 ②QUテストの結果を生かした指導が効果があったか。 ③学校行事等で規律を守った活動ができ、整容等も向上したか。 ①教務事務システムが活用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初のⅡ部の問題行動にA勤務も含め全職員で対応し、立哨・巡回指導等で落ち着きを取り戻した。 ②QUテスト結果を活用した。 ③進路行事等を通じ2・3年次生は整容指導の効果があったが、1年次等、進路意識の低い生徒は難しい状況。 ①教務事務システムのデータを利用した生活指導は定着し、活用されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒理解に努め、早期に適切な対応が可能な体制作りを行う。 ②QUテストは継続して利用していきたい。 ③保護者向け学校自己調査票結果も生かし、多方面の協力を得て整容指導を推進する。 ④4年次生の生活指導のシステムを構築する。 ⑤器物破損の防止策を策定する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 一期生の卒業に向け、一人でも多くの進路実現を目指す。 3年次生の10%、2年次生の26%、1年次生の38%が、進路未定である。将来設計がないと、科目の選択も活用できず、授業への意欲も不十分になりやすいため、個々に即した進路意識の啓発により、生徒を「学び」に向かわせる支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の興味、関心、適性を踏まえた進路意識が啓発されるよう、保護者と協力して生徒を指導し、必要とする能力を身につけさせ、希望する進路を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①産業社会と人間等を利用した計画的なキャリア教育を実施する。 ②4つの系列やモデルプランを生かした科目選択・履修指導を行う。 ③面談や適性検査を活用する。 ④進路実現のための補習を実施し、学力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育の成果として、進路希望未定者が減少したか。 ②進路を意識した科目選択が、適切になされたか。 ③面談や適性検査の結果が進路指導に活用されたか。 ④補習等が生徒に活用され、生徒の希望進路が実現したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職率は7割を超え、県定時制高校の平均を大きく上回った。また、2年次の進路希望未定者は17%に減少、1年次も32%に減少した。 ②教員の科目選択指導に注ぐ力に生徒の啓発の結果が比例しなかった。 ③④面談や適性検査に加え補習や模試も数種実施し、成果があった。1月末現在、就職予定者14名、進学予定者は大学短大23名、専門学校52名。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①2期生の基礎学力を向上させて希望進路を実現させる支援を工夫し、進路決定率を向上させる。 ②科目選択指導のシステムを更によりわかりやすいものに改善する。 ③面談回数や日程を見直し、各年次の必要性に応じた設定とする。 ④補習や模試の利用者を増やし、進学希望者に早期の入試対策を行わせる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会や、不登校の子供を持つ保護者等から注目され、HPアクセス数も15万件を超えた。 地域のボランティア活動への参加や挨拶の励行は好評。 地域の大学や専門学校との連携事業は活発である。 完成年度に向けてPTA・後援会の活動内容も定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生や保護者、地域に理解されるよう、情報発信や広報活動を行う。 PTAや地域との連携事業、近隣の大学や専門学校との連携事業をより活発化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①魅力あるホームページ作成を継続し、時機を得た情報発信を行う。 ②志願者増に向けて広報活動を改善する。 ①PTA・後援会との連携事業を学期に最低2回ずつ実施する。 ②地域のボランティア活動への積極的な参加を推進する。 ③大学や専門学校との連携事業を活発化させ、参加生徒を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの内容が充実し、利用者が増えたか。 ②学校説明会の参加者数や、入試の志願者数が増加したか。 ①連携事業の参加者数が増加し、感想が好評であったか。 ②ボランティア活動の参加者が増加し、感想が好評であったか。 ③連携事業の参加者が増加し、感想が好評であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①アクセス数は20万件近いが、頻繁に更新できない箇所がある。 ②参加者数はやや減少したが、参加者の参加姿勢や感想が向上した。 ①PTAの行事参加や「おやじの会」による花植などが活発に行われた。 ②ボランティア活動の参加者数は微減したが、感想は好評であった。 ③ものづくり大への初の参加者があり、関東工大への参加者も増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの日誌部分以外にも適宜計画的な更新を図る。 ②参加者の参加状況は好転しているので、参加者数増を図る。 ①PTA・後援会等と継続して連携するとともに、地域の理解を得るため駅等の清掃を継続する。 ②ボランティアやインターンシップへの参加者を増やす。 ③連携事業を更に活発化させる。

学校関係者評価	
実施日	平成25年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ○少人数で実施している授業が多数あった。本校の生徒がうらやましい。 ○(本校生徒が受講している)連携専門学校の授業でも、授業態度に積極性が出てきている。 ○「吹上秋桜スタンダード」作成や「質問コーナー」の設置、さらに来年度に向けて生徒の「学び直し」について検討するなど、様々な取組を行っていることは良いと思う。 ○学校全体として面倒見がよいこと、若手の教員が熱心に指導していることが、学校改善につながっているのではないかと。 ○不登校傾向のある生徒に対してここまで面倒見ている学校がどれだけあるか。先生方はその気持ちを忘れないでほしい。 ○中学時代不登校だった生徒の改善率は素晴らしい。教員の対応の成果である。 ○生徒が、自分自身が中学校時代と比較して変わったと気づけるところが良いと思う。 ○生徒の中に、もう少し厳しい指導をしてもよいという意見があることも聞いておいてほしい。 ○初めて卒業生を出すに当たって進路指導部や3年次の教員の努力を評価したい。 ○進路面もそうであるが、就職指導において、新規に企業開拓をしなければならない中で、また昨今の経済状況の中で、生徒も指導した教員も、粘り強く就職活動に当たったと思う。 ○遅くまで騒いだり。駅前のゴミやガムなどの苦情も聞いている。 ○地域がともに育てていくという気持ちをもつことで生徒も変わっていくと考え、地域の方々にもそのような話している。 ○小学生の上級学校訪問で世話になっている。今後小学校の算数の学習における高校生の協力も検討していることとであり、地域との交流は広げたい。 	